



これまでの登山・労山…そしてアルパ インクライミングのことなど No.4

ハンチントン西壁 1976年6月24日登頂
大阪府勤労者山岳連盟隊
撮影・提供・織田博志

くすのき山遊会 織田博志

私の卒業を語る

私は7年前還暦を迎えアルパインガイド業を退職しました。よく事故を起こさずゲストの要望に応え登り続けて来れたものだと思います。ゲストの方達とも面白い試みを度々しました。冬のワンデイ笠ヶ岳、夏の明神岳東稜から前穂高岳～涸沢～上高地をワンデイ登山。室堂から剣岳八ツ峰下半、上半～本峰～別山尾根～室堂ワンデイなど好天を利用した標高差の大きい登山でした。穂高屏風岩はガイドだけで50回以上は登っています。人気の岩壁でした。黒部の岩壁、唐沢岳幕岩、明星山南壁など剣岳、穂高岳、谷川岳以外にも以来が多くありました。ゲストとはザイルを結びあいました。ガイド業も後半になると西穂高岳から槍ヶ岳までの縦走など岩稜歩きが人気となってきました。73年R C C II隊エベレスト南西壁に参加されていた関西学院大山岳部OBの三戸田さんからアラスカのガイドを依頼されました。カナダローガン峰、アラスカ、デナリ峰と登っておられたので面白い山々を依頼されました。ランゲル山群、ドラム峰南西稜、ジャービス峰東南稜、

ランゲル峰、デナリ山群ハンター峰西稜を依頼され登りました。何年にもわたりアラスカでザイルを結びあった三戸田さんも穂高で亡くなっています。いくら経験を積もうが一瞬のうちに命をなくします。兵庫労山カタツムリ山岳会の結城さんはカナダ、ビクトリア山縦走など多くのピークをガイド、ネパールのアイランドピークもご一緒しました。よくトレーニングをされる方で、四季を通して山行日数の多い方でした。会の山行で比良山で亡くられました。残念で仕方がありません。



大阪凍稜会 夏山合宿
「世界の壁へ」を合言葉に！

私の安全対策

「易しい山、難しい山はない。危険度は同じだ。危険度は登山者に内在している。ゆえに易しい山、難しい山はない」。この言葉は師と仰ぐ柳澤昭夫先生がよく言われていた。唐沢岳幕岩大町ルートなど数々の初登攀、後立山の冬季登攀で活躍されました。先生は私に「これだけ後立山の冬を登り込んだけれど、一橋大学の小谷部全助さんを越えることはできたんだろうかと思う。織田ちゃん、カモシカの毛皮の寝袋担いで登攀してるんだもの凄いよなあ！」と考えを伝え、ある時は冗談混じりに「池田町には有名な二人の天才スポーツ選手がいる。それは誰か知ってるか？」と降旗厚さんや酒井秀光さん、私に尋ねるのです。私たちは口を揃え「それはダイエーのマラソン選手、中山さんと柳澤先生です」と、返しました朗らかなユーモアのある師匠でした。厚さんは高校の時、教師であった柳澤先生に出会い、スキーも登山も学びました。文字どりの師弟です。秀光さんとはエベレスト、バギラティ2峰南西ピラーとザイルを結びあいました。厚さんとは、ガウリシャンカールで柳澤先生と一緒にザイルを結びあいました。文部省（当時）登山研修所の研修会では、お互い講師を務め、剣岳を中心に登山をしました。

柳澤先生は研修所の専門職員、所長として活躍されました。退官後は、大町山岳博物館に勤務、館長をされていました。私がアルパインクライミングを続けて、無事だった理由は、若い時に先生と出会えたからだと思います。先生は、若い頃、5年間長野県の競技スキーでトップをゆくスキーの名手です。私は先生にスキーを教えてくださいました。34歳からのスキーは大変でした。山スキーを楽しむにはスキー技術が必須です。国際山岳ガイドの視覚にもスキー技術が必要です。私のスキーは技術を取得するまで「悪戦苦闘、でした。山本一



吉尾弘 岳兄 還暦「垂直に挑む」祝い

夫さんや近藤邦彦さんが上手く楽しそうに山で滑っているのを見るにつけ、早く追いつきたいと思いました。柳澤先生と講師研修会でご一緒する時は、先に行く先生のすぐ後ろで背中を追いかけました。今では懐かしい思い出になりました。秀光さんは、いつも柳澤昭夫のスキーがしたいんだ」と言っていました。私も同感です。今もその思いでスキー技術を磨き山へ入っています。

講師として研修会に参加していましたが、松永敏郎先生の「教えることは教えられること」という言葉は登山に関するあらゆることながらを学び研鑽する時「座右の銘」となりました。松永先生や湯浅道男先生が主任講師お場合、研修会が引き締まった気がしました。長きにわたり柳澤先生を中心に多くの優れた人達が集まり、研修した登山研修所の存在がなければ、今の私はなかったと思っています。深く感謝しています。

それにしても柳澤先生とザイルを結びあい登ったガウリシャンカール、唐沢岳幕岩S字ルート、冬の黒部丸山東壁第1ルンゼ、剣岳での研修は今も大切な思い出です。

研修会では多くの優秀なアルパインクライマーと出会い共に登り、その中でいびつな石魂も磨かれていきました。（続く）